

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271501019		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	グループホーム 徳ちゃん(すずらん)		
所在地	〒857-0414 長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062-3		
自己評価作成日	平成22年 2月 24日	評価結果市町村受理日	平成22年 4月 16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成22年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方の安全を確保し、その人らしい暮らしをしていただく 地域と密接に連携をとり、ホームが地域にとって欠かせない存在となるよう努力したい</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム「徳ちゃん」のある小佐々町には、点在する北九十九島に寄り添うように(日本最西端の地)があり、海の幸、山の幸に恵まれた自然環境豊かな場所にある事業所である。又、モグラ打ちや祭りなど古い風習が受け継がれている地域行事も、利用者や職員には懐かしく地域の方と一緒に祭りを楽しまれている。職員の大半が地域の人なので、利用者や家族にとっては顔見知りであるという安心感や親近感がホームとの距離を縮め、馴染みの人や地域の人とも尋ねやすい環境である。一方、職員にとっても「自分が入りたい、親を入りたい」など理想を掲げたホーム作りで、地域にとっての【希望の光の場所】となることを目指されている。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム各所に掲示し、職員等は常に確認している ミーティングでは、理念を実践できているかどうかを話し合い、実践につなげるよう努力している	これまでの理念に「地域との関わりの中で社会参加できる環境づくり」をメインにした活動のテーマを追加されており、【その人にとって何が 필요한のか、何を望まれているのか】を把握したサービスの提供に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への買物・散歩等、地域と馴染みの関係を保っている 地域の行事(春祭り)やホームでの行事(夏祭り等)の参加で交流をはかっている	地域の方の困りごとなどの相談があれば、出向いて話を聞いたり、相談を受けたりされている。又、老人会や地区の子供育成会行事、地区の文化祭にも積極的に参加・交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員、社会福祉協議会と密に連絡をとり、要援護の方の把握をし、お互いの支援の方法を活かしている 近隣の方も家族や親類の認知症の相談にみえる事がある		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況報告や、ケアの問題点 困難なケースを検討し、解決法をみつけ、運営上やサービスの向上に活かしている 毎回、研究課題を掲げ、学んでいる	偶数月に年6回開催されており、参加メンバーの出席状況もよく、活発な意見交換もできている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、行政センターへ出向き、実情の報告や相談をしている	事業所主催で後期高齢者の保険について、行政の方を交えた勉強会を開催されている。又、小佐々町にある行政センターとの連携も検討されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は皆無であるが、マニュアルをつくり、職員は理解している 玄関は施錠していない(昼間) 夜間は施錠している	身体拘束排除の取り組みとして、日々の業務の中で振り返りながら意識付けすることが大切であることに気付かれ、定期的に取り組む意向を表明された。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止	虐待の実施は皆無であるが、防止対策のマニュアルは学んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会より講義を受けたり新聞等資料を用い、ミーティングで勉強し、活用できるよう職員は努力している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項の説明を十分にし、理解・納得をしていただいている 改定時は説明を十分にしよう努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を置き、ご家族の意見を聞くようにしている(口頭で伝えられる事もある) 外部者へ表せる機会は運営推進会議以外は少ない	家族の伝えにくい心情を理解されている。家族の意向をより良い方向で汲み上げるために、スタッフの対応や、サービスの質の向上について満足度を調査する意向を持ち検討されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の希望・意見は事務員を通して伝えている	職員間や主任とは話しやすい雰囲気である。又、口頭や申し送りノートなどを通して情報伝達されており、遠距離の経営者とは事務員を通して間接的ではあるが、「報告・連絡・相談」の体制で経営者との意思の疎通を図られている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見は事務員を通して伝えている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H21.4より県北のグループホーム協議会に登録し、研修会へ4名程で参加している 介護福祉士、ケアマネージャー、ヘルパー2級の資格取得の支援を受けている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北のグループホーム協議会に登録し、研修に参加し、同業者との交流の機会が出来た 近隣町の方に、相談し、指導を受け運営に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より本人の悩みを聞き、身体状態、生活状態を把握し、不安をとり除き安心して入所される関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、要望などに耳を傾け、何を希望されているかを把握し、信頼してもらえる関係づくり		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、何をホームに求められているのかを見極め、その方に合ったサービスをすすめられるよう努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」と職員は認識している 生活歴を通して得てこられた人生訓を学び仲良く共同生活をするという関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら本人を支えていく関係を築いている 日々の暮らしの出来事や気づきの情報、体調等随時伝えている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人・知人との関係を大事にし、その方達が気軽に遊びに来られる雰囲気をつくるよう努めている(ホームへの訪問、行事への参加をお願いし、ドライブ、買物時には声かけをして頂いている)	馴染みの美容院や近くの商店への買い物支援の他に、中学生の体験学習後の継続した関わりの支援や、友人・知人が立ち寄りやすい環境を活かした支援は、利用者の馴染みの関係継続支援に大いに反映されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握する 食堂の席やドライブ等の座席も配慮している 意見が合わない方達がいたわりあった関係を持たれるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も行事に招待したり、入院先へ御見舞に行ったりと関係を続けるようにしている 家族の相談があれば他のサービスの紹介するなど支援している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言葉や表情、行動から希望や意向を察知している	アセスメントの聴取につながる取り組みをされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を知り、家族・友人・知人より、以前の暮らしを聞いている 前に利用されていたサービス機関(社会福祉協議会等)より情報を受ける事もある		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴や、ライフスタイルに応じて一人ひとりにあった1日の過ごし方を支援する その日その日の精神状態や、能力も考慮している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に希望を聞き計画を立てている(週1回の家族の面会時や家族会で意見を聞いている) 職員は毎日のミーティング、月1回のミーティング等で意見を出し合い計画を立てている 担当の看護師に尋ねる事もある	モニタリングにつながる取り組みが希薄で、日々の個別記録が次の介護計画の見直しや現状に即した介護計画の作成、職員間の情報共有に活かされ難く、単なる生活記録になっており、主任も、検討課題とされている。	モニタリングや介護計画を意識した取り組みが日々の個別記録に反映され、職員間の情報の共有や気づきが次の介護計画の見直しやサービスの提供に活かされることに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をし、一人ひとりに合ったサービスが出来るよう努力している 職員間で情報を共有しながら実践し、見直しをしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体験入所や家族の宿泊も受け入れている 訪問看護業務も行って(現在休止状態である)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問で楽しく過ごされている地域の方とのふれあいで生き生きとした表情がされる 民生員・警察・消防署・地区等の協力を得て安全な暮らしを支援して頂いている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成21年12月22日主治医逝去される。常時連絡が取れる態勢であり、週1回訪問診療を受けていたので、大変困っている。 その後は医療連携で支援を受けている北松中央病院に全員受診された。 平成22年3月1日より、町内徳王医院がかかりつけ医となられた。	今年の3月より、近くの医院をかかりつけ医とされ、毎月15日を往診日とされており、利用者の健康管理につながっているが、夜間時の緊急対応等についてはこれまでと変わりなく協力医等との医療連携体制である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に何でも相談し、指導を受けていたが、出来なくなった 別ユニットの看護師がいるが当ユニットにも看護師の配属を希望している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の病状の説明や、今後の治療について医療機関より説明を受けている 退院時はサマリーを受け、その後の対処につなげている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、看護師、職員で検討している 本人、家族の安心と納得を得られるよう努めている 日常の健康管理や急変時の対応が出来るよう、マニュアルを作り、方針の統一を図っている	看護師が2名おり、医療連携につながっているが、重度化や終末期に向けた事業所としての方針の統一については検討中である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より、救急時の対応等、指導を受けている ミーティングでマニュアルを認識し、時々訓練を行い、発生時すみやかに対応できるよう学んでいる		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難誘導の訓練を受け、月1～2回職員・入居者で訓練を行っている 災害時の備蓄の備えを常に考え、実施している	毎朝、有事の際を想定して、その日の連絡体制等の担当を確認されている。又、3月31日には夜間を設定して「入居者をどのように誘導・避難させるか」をDVDを通じた研修計画を立てられており、消防の指導も仰がれている。尚、避難経路の誘導表示として床に蛍光テープで誘導線を引くなど、具体的にアイディアを持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけをしている プライバシーを損なわない対応が出来るように努めている	土地の先輩、世話になったおじさん、おばさんとして、入居者の生活層と人格を尊重した呼びかけ、声かけをされている。又、個人情報につながる記録物などは、特定の場所で適正管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりと日々よく話して、言葉や表情・行動から、何をどうしたいかを把握するよう努めている レクリエーション等、本人が決める場面をつくっている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体的な1日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いを配慮しながら、ドライブ・散歩・レクリエーション等柔軟に対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分好みの衣服を着衣されている 寒暖にそぐわない服等は助言している 床頭台や各所に鏡があり、常に自分の姿を映されている理美容は職員が希望を聞き似合いの髪型にしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の好き嫌いを把握し、出来る限り好みの食事を提供するよう努めている 食材の買い出しと一緒に行き、調理も手伝われる方もいる 食事の時間は楽しそうである	笑いが絶えない食卓を目指されており、家族からの差し入れや地元の食材など季節を取り入れた彩り豊かな食卓では、利用者と職員の会話にも家庭的な雰囲気が漂い、食事を楽しまれている様子が窺える。食材には季節や地産のものを採り入れられており、利用者の経験や智恵などが準備の段階にも活かされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取量や水分量を把握している 1日3回水分補給をし、食事量・残菜量を記録し、利用者の栄養改善につなげている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝の洗面時、昼食後、夕食後に口腔ケアを実施している 義歯は就寝時ポリドントにつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ライフチャートを記入し、排泄パターンを把握している 排泄の時間を見計らって誘導をし、オムツの使用を減らしている	職員との相性等の関係でスムーズな誘導につながるケースを除けば、職員の声かけ誘導や見守りを通じた対応で、本人の自立支援につながっている。パットなども可能な範囲で本人に交換いただくなど支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を把握し、食材や調理の工夫をしている 水分摂取も注意している 散歩・清掃等、体を動かす機会を多くし、薬に頼らず自然排便が出来るよう努力している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や状態に応じて入浴を施行している 回数・時間等は出来るだけ調整するようにしている 入浴を楽しまれている	週2回の入浴を楽しまれている。脱衣室、浴室共に広く、大きな窓からは日が差し込み明るく、ゆったりしている。清潔を保ち、体を温めるために足浴も取り入れ、柚子や菖蒲湯で季節を感じる工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや、睡眠パターンを把握して休息や睡眠が出来るよう配慮している 日中、ドライブ・散歩などで体を動かすよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や薬の目的、副作用を理解し、主治医の指示によって服薬支援をしている 服薬チェック表を作成し、異常がある時は主治医に相談している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜切り・魚作り等、得意の分野で力を発揮できるように支援している 梅干し、らっきょう漬もされる 飲酒される方もいる		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・ドライブ・行事等、利用者の体調や希望を聞き、外出の支援をしている 日常無理のある外食やドライブ等は家族支援を受けている	利用者の要望で、本人の衣類等を購入される為に一寸遠方になっても支援され、本人の満足につながっている。家族支援による外出も多く、入居者が戸外の空気に触れられる機会は多くとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つという事は、利用者にとって楽しみであり、安心でもある 家族は少額のお金を渡されている ドライブ・行事等、財布より支払って買物をされ、生き生きとされている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話される事もある 家族・知人からの贈り物の御礼等、利用者の方も電話で話される 年賀状・暑中見舞いを手作りハガキで出されている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、居間には遮光カーテンをとりつけ、明るく柔らかな室内になっている 寒暖はエアコンで調整している 料理、行事等で季節感をだしている	玄関前には近隣の中学生から届けられた可愛い花鉢が並べられている。ホールには入居者の作品展示がされ、家族等から届けられる季節の花々は入居者と一緒に活かされる。光あふれるサンルームはユニットをつなぐ通路であり、避難路ともなる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、サンルーム、居間、中庭に椅子やテーブルを置いて、思い思いに過ごせる空間がある 利用者同士でゆったりと過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自宅で使用されていた馴染みのタンスや寝具、テレビ等置いている 家族の写真や手作りカレンダーを飾り、落ち着いた居室づくりを配慮している	ゆったりした室内はベッドが置かれ、寝具は各々自宅で使われていたものを使用されている。又、見せていただいた居室の利用者は、案内の途中で壁に飾られたペナントについての思い出話を懐かしみながら嬉しげに語られるなど、家族との絆が活かされた居室作りの支援が窺える。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内外にスロープ・手すりを設置し、バリアフリーの作りになっている 洗濯物干しの高さや庭に出る通路も安全に留意している 各自の居室のドアは大きな名札と生まれ年の干支の絵を貼り、混視を防いでいる		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271501019		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	グループホーム 徳ちゃん (福寿草)		
所在地	〒857-0414 長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062-3		
自己評価作成日	平成22年 2月 24日	評価結果市町村受理日	平成22年 4月 16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1F
訪問調査日	平成22年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に理念・目標を話し合い、確認し合うようにしている		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会・行事等、地域活動に積極的に参加し、地元の人々と交流する事に努めている 地区の中学生が交流会を開催してくれるなど地域との交流がある		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に的に散歩や買い物、理容など近隣の方たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている 近隣の方が草花・野菜を持ってきて下さる事もあり、ふれあう機会が多い		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族・民生員・町内会長・行政の職員等に参加して頂き、現況報告や意見交換を行いサービスの向上に活かしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方(行政センター・市役所(保護課))とは普段より交流があり指導を頂いている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行ってはいけないと全職員が認識している 玄関の施錠も行ってない		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、対策のマニュアルは勉強している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、全職員・家族の方が出席し、社会福祉協議会の方より講義をしていただいた		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み・利用料金等、十分な説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングを行い意見を聞くようにしている また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見等は事務員を通して代表者へ伝えている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や、助言・指導をしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の方とは交流があり、相互の活動に役立っている 佐世保市のグループホーム協議会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って、身体状態・生活を把握するよう努め、受け入れられるような関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や、今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面を多くもてるように工夫や声かけに配慮している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添い、日々の暮らしや気づきの情報の共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人の方が遊びに来られたり、関係が途切れないよう、支援に努めている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの相談など話を聞き、楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係が円滑であるよう、職員が調整役となり支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるよう心掛けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、話しかけ把握に努めている 話の内容や表情などから、本人の真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている 意思疎通が困難な方はご家族や関係者から情報を得るようにしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時にご本人やご家族、関係者などから聴き取るようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況情報について、常に職員同士確認し合い、気づきなどはすぐにカルテ等に記載し、現状を把握しやすいよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から相談・希望・苦情を聞き計画を立てている 家族の面会時に意見を伺ったり、電話での報告・相談も実施している スタッフで意見を出し合い、作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや意見を活かして状態を把握している 月に1回大きなミーティングをし、毎日、申し送りを兼ねたミーティングを行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態を家族に相談しながら、本人の意向を組んだ支援内容に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヵ月に1回、運営推進会議を開催し、民生員や町内会長等、参加して頂き意見交換する機会を設けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成21年12月22日主治医逝去される。常時連絡が取れる態勢であり、週1回訪問診療を受けていたので、大変困っている。その後は医療連携で支援を受けている北松中央病院に全員受診された。平成22年3月1日より、町内徳王医院がかかりつけ医とされた。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者の健康状態の変化に応じた支援を行えるようにしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院状況を把握するため、家族や病院との連絡を密にし、情報交換を行っている また、今後の治療について病院より詳しく説明を受け、速やかな退院支援に心がけている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、入居者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる 急変時にはすぐに家族や主治医に報告し対応している		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や初期対応の実践練習を行い、急変時に備えている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を定期的に行っている 万が一、火災があった場合は近隣の方にも連絡し、協力してもらえる体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングで入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応について話し合いながら実践している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認し、出来る限り本人に決定した事を実行して頂く		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとつひとつの行動に対し、必ず本人の意向を確認したうえで、介助に添うようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めており、各部屋に鏡付き床頭台を置き、整髪や着衣の整えに利用されている 理美容は希望があれば近隣の美容院で行うよう対応している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しに入居者も同行し、魚等希望の品を買い、野菜切り・味付けにも参加されている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の病態や体調に応じて食事量や水分量を調整している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、自分で困難な方は介助を行う 義歯の不具合についても確認を行い、症状があれば歯科受診をすすめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りパット等を利用したり、排尿時速やかにトイレに誘導するなどして、排泄の失敗やオムツの使用を減らしている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握したうえで、水分量や内容を変更したり、毎日リハビリ体操をするなど運動療法を取り入れている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数・時間帯等、本人の希望に出来る限り対応し、入浴を行っている 基本ひとりずつの入浴であるが、友人と一緒に入る方もおられる		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者ひとりひとりの睡眠パターンを把握し、日中散歩やドライブ・入居者同士の会話やレクレーション等で体を動かし良民できるよう配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を示したファイルを作成しており、職員が常に把握できるようにしている また、服薬時、3回確認を行い投薬ミスのないよう努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・野菜作り、また、得意分野など力を発揮できる場面作りや、レクレーション等の企画を行っている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出を、職員又は家族にも協力を得たうえで計画を立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族は本人に少額の小遣いを渡されている 自分で買い物をし、財布よりお金を出し支払われている</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族に電話をされている方がおり、使用は職員の許可を得て自由にされている 手紙のやり取りや、暑中見舞い、年賀ハガキを手作りし家族にだしている</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室・居間には遮光カーテンを使用し、テレビの音量にも注意している 作品や草花、外出先での思い出の写真を飾り、季節を感じられるよう工夫している</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関、サンルーム、居間、中庭にイスやテーブル、ソファを置き、仲の良い者どうしくつるげるコミュニティスペースを作っている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族との写真の他、ホーム内で作成した作品などを飾り、温かい馴染みやすい室内作りを心がけている</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>使用物品や、トイレなど頻繁に使用される場所には分かりやすく、大きな表示にし、入居者が利用しやすい生活環境づくりに心がけている</p>		